

わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

地域包括ケアシステムを支える人々

85

「地域包括ケア」を定義する時、「住み慣れた街・地域」「自分らしく暮らす」がキーワードとしてあげられます。

「住み慣れた街・地域」とは、見慣れた景色、ご近所とのつながり、馴染みの関係等の中で安心して暮らせる場所であり、また認知症を患っても「ここに居る・ここにある」ことを感じられるそんな場所が「住み慣れた街・地域」ということになるでしょうか。

「自分らしく暮らす」とは、自分がこれまで大切にしてきた価値観や生き方を、自分も周囲も尊重できることでしょうか。

これら二つのキーワードからデイサービス役割について想像し、具体化していくことが我々の使命です。それによって地域で求められるデイサービスを実現していく事が大切であると考

えています。ここでは、キーワードに基づいた諏訪市デイサービスセンター西山の里の取り組みについてご報告さ



障がい者作業所との共同取り組みの様子

高齢者デイサービス

の役割について

諏訪市社会福祉協議会 介護保険事業所長
西山の里所長

きたざわ まさひろ
北澤 将広



パン作りの様子

せていただきます。
まず「住み慣れた街・地域」です。諏訪市デイサービスセンター西山の里では、地域とのつながりを大切に考え、多くのボランティアの皆さんにご協力いただいています。活動頻度に違いがありますが、年間20組の団体と個人のボランティアが活動しています。その中のひとつに、「パン作り」の取り組みがあります。パン屋を営んでいるボランティアさんにご指導いただきながら行います。いい香りが漂う中、焼き上がりを想像してパンを作っていると、その工程で「こねたり、丸

めたり」していると自然に機能訓練となつていきます。焼きあがったパンをかじると、利用者、ボランティアさん、職員も笑顔になれます。これからも大切にしたい取り組みです。

次に「自分らしく暮らす」です。西山の里のスローガンは「いつまでもチャレンジ生涯現役」で、自己選択制の機能訓練を行っています。令和6年度は加えて「共生社会」を意識した取り組みを行っています。社協には障がい者の作業所がありますが、この作業所の皆さんと一緒にデイサービスにて作業を行っています。デイサービスというサービスの受け手である利用者の皆さんですが、この取り組みで社会に出ていく製品を作成することにより、社会的な役割を感じることが出来ます。サービスの受け手としていつも「ありがとう」と言っている側から、「ありがとうございます」と言われる側になります。西山の里が、支え支えられる場所になり、役割をもっていつまでも自分らしく生活していただければと思っています。

以上、紹介しました二つの取り組みは、医療・福祉関係者の連携にとどまらず、地域の商店や工場をはじめとする地域住民の皆さんの理解と協力が必要になります。私たち諏訪市社会福祉協議会の介護保険事業所は、これからもライフドアすわの活動に参加し、地域包括ケアの推進に貢献できればと考えております。

次回(4月)の口掲載